



# DOG FIGHT R

コカコーラゼロ

鈴鹿4・8時間耐久ロードレース

2015

参戦活動報告書

Road Race Activity Plan

---

TEAMJP DFR KOREA

TEAMJP TAKEUP KANADA

TEAMJP DFR AU



株式会社ドッグファイトレーシング

# レース

## Race

### 鈴鹿8時間耐久 2チームが揃って完走

### 4時間耐久ではコーリーが28台抜きの快走を見せる17位完走！

TEAM JPとコラボして臨んだ今年の鈴鹿8時間耐久レース。韓国チームの8耐初参戦を支援した「TEAM JP DFR KOREA」。そして、カナダ・香港・日本の国際色豊かな編成となった「TEAM JP TAKEUP KANADA」の2チームを支援する形で参戦致しました。

また、4時間耐久にはオーストラリアで出会った17歳のコーリー選手を起用して急遽チームを編成。其々のレース結果をご報告いたします。

トンベイ名：コカコーラゼロ・鈴鹿8時間耐久レース

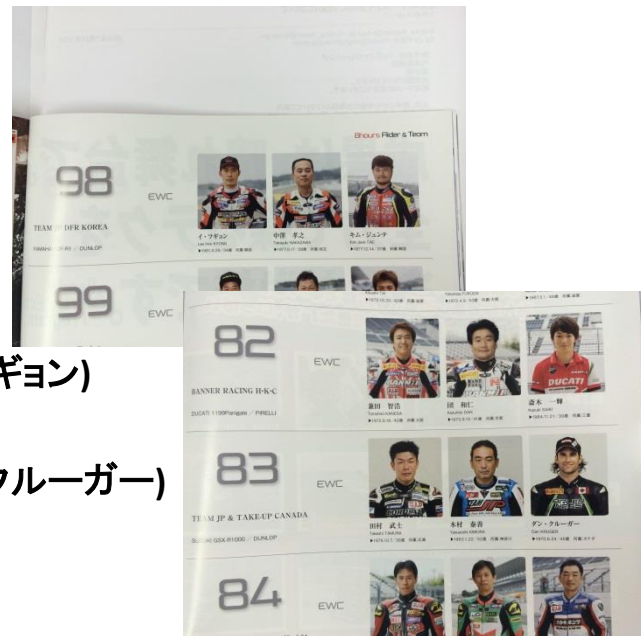
開催日：2015年7月23～26日

開催地：鈴鹿サーキット(三重県)

観客動員：12万0000人(4日間合計)、決勝6万8000人

### スーレ結果

- |        |    |  |
|--------|----|--|
| EWC#   | 98 | TEAMJP DFR KOREA (中沢孝之 / キム ジュンテ / リーフギョン)   |
|        |    | 予選68位 決勝 40位(184周)                           |
| EWC#   | 83 | TEAMJP TAKEUP KANADA (田村武士 / 木村泰善 / ダンクルーガー) |
|        |    | 予選56位 決勝 50位(155周)                           |
| ST600# | 83 | TEAMJP DFR AU (コーリーターナー / 和泉邦昭)              |
|        |    | 予選30位 決勝 19位(92周)                            |



# TEAMJP DOGFIGHTR KOREA(その1)

## Race

かつて韓国人が鈴鹿8時間耐久本戦を走ったことは無く、ましてやチーム編成をしての参戦は初となる韓国チーム。昨年末に参戦を決めたもののライダーの人選や韓国でのレース（KSBK）との調整で鈴鹿を走る時間が取れず、第1回目の公開テストも不参加となった為、7月の公開テスト2回目とタイヤメーカーの合同走行のみといった少ない練習時間で予選通過を目指す厳しい条件でのスタートとなりました。貴重な練習時間となった公開テスト初日は生憎の雨となりましたが、少しでもコースに慣れてもらうために二人の韓国ライダーには雨の中積極的に走り込みを実施。さすがに初めての鈴鹿でウエットコンディションではタイムも望むべくもなく、天候の回復を祈りながら初日を終えます。翌日は午前中の走行がcaろうじてライン上がドライといったコンディションに回復。短い時間に3人のライダーが交代で乗車。更に走り込みを願った午後は雨が降りはじめウエットコンディションでの走行となってしまった。

一度帰国してその間にイメージトレーニングとビデオ学習をして15日に再び来日してテストに臨みました。ようやく夏本番さながらの気温となった鈴鹿を走る二人ですが2分30秒を切ったところからタイムが伸びず25秒を切る事が出来ません。このままでは予選通過基準タイム（クラストップ3台の平均タイムの115%まで）に届きません。今年の8耐はレベルが上がっており3台平均が2分07秒だった場合、通過基準タイムは2分24秒となり、このままでは中沢選手が予選通過タイムを記録しても韓国ライダーが決勝に参加できなくなってしまう。一方の中沢選手も真夏の路面で走る鈴鹿の攻略に手こずってタイムが伸びません。韓国ライダーの為に走行時間を削っている事もありマシンをまとめるのに時間がかかってしまい予選ボーダーと設定した2分14秒には程遠い状況。まさにピンチの状況でレースウィークを迎えました。

# TEAMJP DOGFIGHTR KOREA(その2)

## Race

心配された台風はラインを変えてくれた為木曜日の走行は何とかドライコンディションでスタートを切る事が出来ました。いよいよ本番となり集中力が高まってきたのか、3人のライダーがどんどんタイムを更新してゆきます。キム選手は2分20秒を切り、リー選手も22秒を記録。二人の通過基準タイムクリアを確信する事が出来ました。中沢選手も自己ベストを更新するところまで詰めてきましたが総合順位ではギリギリのところ。今年は参加台数が多いために予選のクラスは2クラスに分かれてタイム計測を行うため予選通過の為には各クラス33位までに入らなければいけません。

そして迎えた公式予選。真夏のサーキットは路面温度も一気に上昇して50度を超えていきます。予選は各ライダーが2回づつアタックする事が出来ます。このアタックでキム選手は2分17秒を記録。リー選手も2分20秒を記録して見事に予選通過基準タイムをクリア。ところが第一ライダー中沢選手は1回目の予選で15秒9を記録しますがクラス総合で35番手となりこのままでは予選落ちとなってしまいます。意を決して臨んだ2回目の予選。走行条件がさらに厳しくなる中で2分15秒4迄タイムを縮めクラス32番手に上がります。しかし喜びもつかの間で第2、第3ライダーの中でこのタイムを超えるチームが現れ34番手に落ちてしまい予選落ちとなってしまいました。

最後の望みは主催者枠の発表です。8耐は決勝グリッドが70台の為、予選で66台が決まり残り4台を主催者枠として合計70台が決まります。発表を待つスタッフ達。そして発表された内容はシード権を持つ1チームが繰り上がり、残りの3台分の枠はクラスのタイム順で選出と発表され、34番手の韓国チームは決勝出走が決定しました。

# TEAMJP DOGFIGHTR KOREA(その3)

## Race

土曜日の4時間耐久とトップ10トライアルのイベントを挟み、日曜日の11時30分に8時間耐久のスタートが切られました。スタートライダーは中澤選手、そこからキム選手、リー選手と順調にバトンを繋ぎ順調に順位を上げてゆきます。

しかし4時間を過ぎたあたりから排気音に異常が出始めます。その異音は徐々に大きくなり、マフラーの破損が想定されました。ごまかしながら走り切る事も出来そうですが、レース後の排気音量が基準を超える事は明らかなため、チームは予定されたピットインのタイミングでマフラーの交換を決定しました。リー選手から中沢選手に変わるタイミングでマシンを一度ピットに入れて緊急作業開始です。素早い作業で交換を完了して送り出すと、その後はノントラブルでキム選手、リー選手とバトンを繋ぎ184周を走り切って見事に完走を果たす事が出来ました。



# TEAMJP TAKEUP KANADA(その1)

## Race

田村(日本)木村(香港)ダン(カナダ)の国際色豊かなチーム編成となったTAKEUPチーム。

事前テストではドライセッティングで走り込む事が出来ず、また転倒によりマシン状態も万全とは言えない状態でレースウィークを迎える事となりました。

修復したマシンを持ち込んだ木曜日の初日は、マシンチェックや様々なセットアップの為に第一ライダーの田村選手から走行を開始。車体のセットを確認してライダー交代し、事前テストに参加できなかったダン選手が乗り込み周回を重ねます。順調に走り出したダン選手ですが2分19秒に入り更にペースが上がった周回にヘアピンコーナー立ち上がりでハイサイドで転倒を喫してしまいます。クラッシュパッドの無いタイヤバリアに当たった為にマシンは大破。そして頭を強打したダン選手は一時記憶を失うほどの脳震盪を起こしてしまいドクターストップがかかり出場を断念することになってしまいました。

この結果、決勝を田村、木村の2名で走る事になったチームですが、田村選手は事前テストの転倒で万全の状態には程遠いコンディション。木村選手も大腿骨骨折からの復帰レースの為にロングランが難しい状況。それでも8時間を二人で走り切らなければならない非常に難しい状況で決勝を迎える事となりました。



# TEAMJP TAKEUP KANADA(その2)

## Race

スペアバイクで臨んだ公式予選はバイクをいたわりながらのアタックとなりましたが、無事に56番手で通過して決勝の朝を迎える事が出来ました。

決勝を迎えTAKEUPチームの長い一日が始まります。完走を目標に走行時間を短く繋ぐ作戦に変更。スタートライダーは田村選手です。近年にない猛暑の中、慎重に周回を重ね、徐々に順位を上げてゆくとセーフティーカー(SC)が導入される転倒が発生。体力温存と走行時間を引き延ばせるSCは救いの神です。20週の予定周回でピットインして46番手まで順位を上げて木村選手に交代。木村選手の周回は少し短く13周ですが、4周目にデグナーコーナーでフロントからスリップダウンを喫してしまいます。幸いマシンやライダーのダメージは少なくピットに戻ってきた木村選手からマシンを受け取りメカニックたちの修復が始まります。20分ほどのロスタイムで修復を終え再び田村選手に交代してレースに復帰します。レース中盤までは安定した周回を重ねていましたが、田村選手の3回目の走行で急遽ピットイン、電気系トラブルでエンジンが1万以上回らないトラブルが発生。スロットルボディやフューエルポンプを交換して修復しましたが、このトラブルで周回数が減り、このままでは最後まで走り切っても周回数不足で完走できない事態に追い込まれてしまいました。

ここまでは二人の体力を考えて短めの走行時間で刻んできましたが、最後の走行をロングランに変更してピット回数を1回減らす作戦に変更しました。体力を消耗している二人のライダーには酷な指令ですが、完走の為に苦渋の選択です。そのロングランを走り切った田村選手から木村選手に最後のバトンが渡ります。このままいけばギリギリ完走できると思ったレース終盤に再びSCが入ります。すると木村選手が緊急ピットイン。なんとシフトリンクのベースが割れるトラブルが発生。大急ぎで修復してコースに復帰させます。通常であれば2周は失い完走出来ないところでしたが、SC導入により1週のロスでコースに復帰できた木村選手は無事チェッカーを潜り153周を走り切り見事完走を果たす事が出来ました。

# TEAMJP DOGFIGHTR AU(その1)

## Race

オーストラリアで13歳のコーリー選手に出会い、昨年韓国のレースの招待選手として再開した時に成長したコーリー選手の走りと精神の強さに惹かれ、急遽今年の鈴鹿4時間耐久の参戦を決定しました。国内選手権を走るコーリー選手は、ライセンスの問題もあり、鈴鹿を走る事が出来たのは7月になりサーキットライセンスを取りに来た時に一度と、タイヤメーカーテストの2回のみ。しかもヤマハのR6に乗るのも初めてですが、鈴鹿サーキット初走行で2分21秒を記録。

最終的に20秒台までタイムを詰めて事前テストを終えました。ペアを組む和泉選手は今回の参戦の為に急遽出場をお願いした経緯があり、レースキャリアも少なく600に乗るのも初めての為、戸惑いの中の走行でしたが、そのような状況でも安定したラップを刻みマシンをいたわるライディングが出来る心強いパートナーです。

レースウイークに入りマシンにも慣れてきたコーリー選手はセットアップを進めて公式予選に臨みます。まずは第2ライダーの和泉選手が真昼の路面温度の高い過酷な状況でタイムアタックに入ります。この走行で和泉選手は自己ベストを更新してコーリー選手にバトンを渡します。そして夕方のコーリー選手のタイムアタック。クリアラップが取れず悔しいと言いながらも2分19秒を記録してクラス4番手で予選を終え、総合30番手から決勝に臨みます。





# TEAMJP DOGFIGHTR AU(その2)

## Race

ここまで練習時間も少ないため決勝用のハードコンパウンドは使わないで来た為、ぶっつけ本番でハードコンパウンドで決勝を走ることになった二人のライダー。スタートライダーはコーリー選手。快晴の中、路面温度も一気に上昇する中スタートが切られました。

抜群のスタートを見せたコーリー選手は一気に15番手に上がり更に前に行く選手をズバズバと抜きまくります。

そしてなんと3周目には28台抜きの2番手に上がりリトップを行くライダーの背後に迫ります。この勢いなら間違いなくトップを奪取と思った4周目にSCが入ります。3周にわたるSCが終了してリスタートが切られた瞬間、コーリー選手のマシンがなかなか加速しません。次々と後続にパスされ7番手まで順位を落としてしまいます。

慣れないSCにリスタートのタイミングを誤ったのかと思ったら、スロー走行中に4速ギアで走っていて、リスタートをそのまま4速で走ってしまい失速していたとの手痛いミスが原因でした。

それでも再びオーバーテイクショーの始まりです。ポジションを3番手に上げた時には上位が離れてしまいましたがそのまま3番手で和泉選手にバトンを繋ぎます。二人はレース終盤まで順調な走行を続け、終盤になっても22秒台で走るコーリー選手は順位を19番手まで押し上げて4時間を完走しました。



# 総括

## Race

今年の鈴鹿耐久はこれまでのアジア各国でのレース支援活動のネットワークが鈴鹿に集結する事になり、カワサキの車両で4耐に出場したオージーライダーも含めると、8耐に2チーム。4耐に2チームの合計4チームの参戦となりました。全体のコントロールや、本戦迄の準備、転倒による修復な等々、かつて無い程の忙しいレースとなりましたが、それでもそれぞれのチーム&ライダーが成長する事が出来、8耐チームの完走や、周囲の度肝を抜く若手の発掘など収穫も多く、実り多き耐久ウイークでした。そしてこの参戦に当たりご協力頂きました皆様にまずは深く感謝申し上げます。

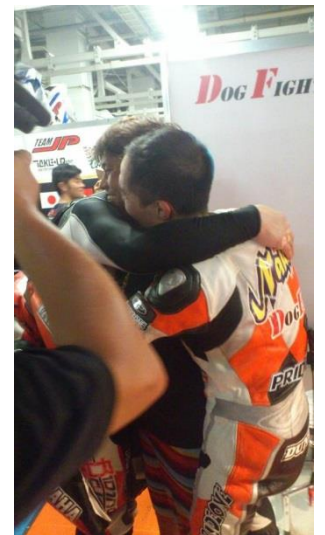
レースが終わって一息つく暇もなく今週末は茂木で行われる「茂木7時間耐久レース(通称もて耐)」が開催されます。4・8時間と合わせて19時間耐久に突入しますが、こちらのレースも社員一丸となって優勝目指して戦って参ります。

そしてあっという間に来年の鈴鹿がやってきます。皆様と再びあの感動を分かち合えますよう、そしてファンの皆様と感動を共に出来ます事を楽しみにしております。

ドッグファイトレーシング  
代表 室井秀明

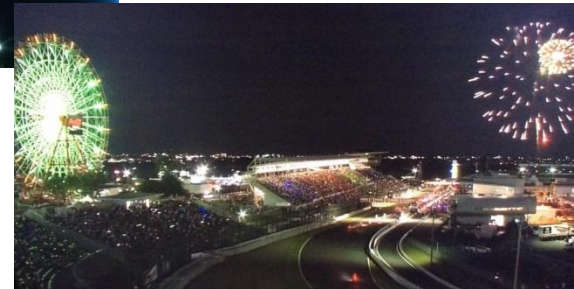
# ギャラリー

## Race



# ギャラリー

## Race



# ギャラリー

## Race



# ギャラリー



**DOG FIGHT R**



株式会社ドッグファイトレーシング  
代表 室井 秀明

〒271-0061

千葉県松戸市栄町西4-1195-4

TEL047-703-3030 / FAX047-308-1122